



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

トピックス

「ふれあいの森」協定を締結

（社）京都モデルフォレスト協会と「ふれあいの森」協定を締結、オムロン（株）が森林整備活動を支援

京都大阪森林管理事務所では、（社）京都モデルフォレスト協会と京都市内の長刀坂国有林（約 14ha）を対象とする「ふれあいの森」協定を締結することにより、同協会による活動フィールドとして、「長刀坂モデルフォレスト」を設定しました。（社）京都モデルフォレスト協会では、森林所有者、地域住民、企業、NPO、大学、行政等が連携して、府民みんなで京都の森林を守り育む「京都モデルフォレスト運動」を展開しています。



長刀坂国有林（中央付近）

（社）京都モデルフォレスト協会では、「ふれあいの森」協定の締結を踏まえて、「長刀坂モデルフォレスト」における森林の利用保全活動を推進するため、オムロン（株）、オムロン労働組合並びに京都府と「森林の利用保全に関する協定」を締結して、四者の連携により、アカマツ林再生や野鳥の森づくり、歩道づくりなどに取り組むこととしました。オムロン（株）は、同社の社名が「御室（おむろ）」と呼ばれる仁和寺の近隣で創業されたことに由来することから、今般、仁和寺に程近い長刀坂国有林での森林整備活動に協力して頂けることとなりました。

両協定の締結を受けて、4月21日（水）に、京都府公民館において、京都市内の長刀坂国有林を対象とする「ふれあいの森」協定交換式並びに「森林の利用保全に関する協定」調印式が開催されました。

当日は、まず、「ふれあいの森」協定交換式として、朝比奈清近畿中国森林管理局長と柏原康夫（社）京都モデルフォレスト協会理事長が協定書を交換したうえで、「森林の利用保全に関する協定」調印式として、立石義雄オムロン（株）代表取締役会長、東影英樹オムロン労働組合京都支部執行委員長、山田啓二京都府知事並びに柏原（社）京都モデルフォレスト協会理事長が協定への署名を行いました。

署名終了後、まず、朝比奈局長より、長刀坂国有林は京都嵯峨野の背景林となっているが、よく見ると松枯れが広がりつつあります。

今般、京都モデルフォレスト協会、（株）オムロン、オムロン労働組合並びに京都府の連携により、森林整備に取り組んでいただけることをうれしく思います。

関係者の取組により、京都における森林景観が再生されることを期待している等コメントを述べました。

続いて、立石会長より、森林保全活動を通じて環境への意識を高め、循環型社会の実現につなげたい旨、東影委員長より、労働組合としても環境保全の取組を強化したい旨、柏原理事長より、国有林でモデルフォレスト運動を全国に広げていきたい旨、山田知事より、国有林でモデルフォレスト運動を展開できることを思う旨、それぞれコメントがありました。



今後、（社）京都モデルフォレスト協会では、同協会の会員やオムロン（株）の社員、地域住民等の協力を得つつ、「長刀坂モデルフォレスト」において、広葉樹の除伐や地

表の落ち葉の除去等を行い、アカマツ林の再生や野鳥の森づくりに取り組む予定です。当所としては、同協会による取組を積極的に支援する方針です。

「ふれあいの森」とは・・・

「森林づくりに参加したい」「森林とふれあいたい」「森林の豊かさを理解したい」という皆様の声に応え、国有林のフィールドを提供するものです。ボランティア団体や企業の皆さんが中心となって、森林作業体験や様々なアイデアを活かした森林づくり活動、親林活動（森林に親しむ活動）を楽しむ場としてご利用できます。

協定の締結・・・

参加に当たっては、森林管理署長などと5年を最長とする協定（更新は可能）を締結していただきます。

「ふれあいの森」では・・・

設定された箇所に独自の名前を設定し、植栽、下草刈り、つる切り、除伐などのほか、これらの活動と一体となって行う森林とのふれあい活動（森林浴、自然観察会、森林教室など）を行うことができます。なお、活動に必要な経費は参加する皆さんに負担していただきます。また、参加する団体や企業はふれあいの森における植栽木等に関する権利を有しません。

「ふれあいの森」に参加できる人は・・・

地方公共団体、ボランティア団体及び企業等で、自主的な森林づくり活動を行うことを目的とし、以下の要件を満たすものとなります。

- ・団体の目的、運営等に関する規約を有すること。
- ・活動の目的が特定の者の利益に資するものとならないこと。

林野公共事業コスト構造改善プログラム

森林整備課の林道事業では、平成20年4月に策定された「林野公共事業コスト構造改善プログラム」に沿って、平成24年度までの5年間で、15%の総合コスト改善率の達成に向け、事業コストの低減とともに品質の向上にも取り組んでいます。

「林野公共事業コスト構造改善プログラム」は、従来の評価の概念である①工事コストの縮減、②事業便益の早期発現、③将来の維持管理費の縮減に加え、新たに④

民間企業の技術革新や調達の効率化によるコスト構造の改善、⑤長寿命化によるライフサイクルコスト構造の改善、⑥社会的コスト構造の改善が評価項目として追加されました。

平成20年度における各項目の取り組みとして、①工事コストの縮減では、「現地発生材の使用」、「再生骨材の使用」、「建設副産物の発生を抑制」、「積算の見直し」等においてコスト縮減を図り、③将来の維持管理費の縮減や⑤長寿命化によるライフサイクルコスト構造の改善では、「勾配付横断工」、「路面舗装」等においてコスト縮減を図り、④民間企業の技術革新や調達の効率化によるコスト構造の改善では、「工事情報のインターネット掲示」、「電子入札の実施」等を実施しました。

現地発生材の使用（崩岩石をカゴ砕土留工に活用）



施工中



完成



この結果、新設工事と改良工事に区分し各項目の改善による効果を算出したところ、新設工事の総合コスト縮減率が5.6%、改良工事は47.5%、新設工事と改良工事を合算すると36.6%となり、初年度から目標を大きく上回る結果となりました。

しかし、②事業便益の早期発現、⑥社会的コスト構造の改善については該当するものがなかったことから、今後はこれらを含めて総合コスト改善率の達成に向けて取り組みます。

地域ニュース

登山シーズン幕開けのイベント実施

【岡山森林管理署】4月29日（昭和の日）、那岐山国有林において、奈義町観光協会、智頭町観光協会主催による「第24回 那岐登山ふれあい大会」が実施されました。この大会は、岡山県奈義町側と鳥取県智頭町側から別ルートで山頂を目指し、山頂で両町民が一つになって交流を深めるのが目的であり、また、本格的な那岐山登山シーズンの幕開けを告げるイベントでもあります。当日は天候にも恵まれ、また、ゴールデンウィーク初日



森林の有する多面的機能について説明する職員

とあって県内外から多数の参加者で賑わいました。

岡山森林管理署では、奈義町側からの登山道途中にある「みどりの広場」で森林教室を開催しました。当広場で一息入れている多くの登山者を対象に、業務課長が森林の機能や間伐の必要性等についてパネルを用いて説明した後、森林官から檜皮採取林や間伐後の林内、複層林施業地など実際に登山道から見ることで森林管理署の取り組みについて説明がありました。毎年参加されている参加者からは「間伐で光を入れることで、林内の様子がこんなにも違ってくとは思わなかった。」等の感想が寄せられ、普段とは違った視点での登山を楽しまれている様子でした。

素晴らしい眺望の山頂では「山火事に注意して那岐山国有林を満喫してください」との署長挨拶を皮切りに、観光協会によるじゃんけん大会やクイズ大会などで小学生からお年寄りまで参加者全員が交流を深めました。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/okayama/>

地域ボランティアによる植樹体験の開催

【福井森林管理署】5月8日、県北部の海岸林の北潟国有林（あわら市北潟）においてボランティアによるクロマツの植樹体験を実施しました。

北潟国有林には「ふれあいの森」「遊々の森」を設定しており、当署では、森林にふれあえる機会の創出とともに、マツ枯れ対策として植樹活動を進めています。今回植樹を行ったのは環境保全活動に取り組んでいる「厳の会」（福井市）のメンバー10人で、北潟国有林での植

樹体験は4回目になります。当署では今回の植樹に備え、高さ約30cmのクロマツ苗木40本を用意するとともに、国有林を整地しました。

当日は心配された雨も朝までに上がり、参加者は福井県フォレストサポーターの会スタッフや当署職員の説明



メッセージを書き込む参加者

を受けながら熱心に植樹に取り組んでいました。スコップやくわで苗木を植え付けたのち、用意された竹板に日付や名前のほか「天

まで大きく元気に育って」「大切な自然を守ろう」といったメッセージをそれぞれ書き込み、苗木に添えました。

およそ一時間の植樹体験のあと、苗木の植え付けられた一帯を見て、参加者の皆さんは満足そうな表情を浮かべ、未来の松林に思いをはせていました。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/hukui/>

城山国有林で竹駆除作業

【山口森林管理事務所】5月11日、城山国有林（山口県岩国市）において、地元横山3丁目自治会と当所職員総勢12名が参加して、昨年竹林伐採した箇所が発生した若竹（竹の子）の除去作業を行いました。

今年は、発生して間もない若竹の除去作業と云うことで昨年から見ると楽しい作業となりました。

参加者は竹林の早期根絶に向けて、一本一本丁寧に見逃さないよう処理し、「山が大変綺麗になりましたね。私達も、気を付けて小まめに除去していきますから。」と頼もしく受合ってくれました。



若竹を手鋸で除去中

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/yamaguchi/>

県民みどりの祭典に参加

【石川森林管理署】去る4月29日、「昭和の日」に石川県主催の「第26回県民みどりの祭典」が開催され約2500人の入場参加者で賑わいました。

会場となった石川県河北郡津幡町の石川県森林公園は石川県政100周年記念事業として開設された総面積1,150haの広大な森林公園です。

この祭典は、同会場で昭和 58 年 5 月に「小さな緑守り育てて豊かな郷土」をテーマに開催された第 34 回全国植樹祭と平成 6 年 9 月に「この緑育む手と手で豊かな明日」をテーマに開催された第 18 回全国育樹祭を記念し、併せて緑化活動を通じた健全な青少年の育成、県民参加の森づくりの推進を図ることを目的として毎年開催されています。



「国有林コーナー」ブースの様相

式典では、石川県知事の挨拶で始まり、森林環境功労者表彰や緑の少年団活動発表が行われました。

会場内では、間伐材を使った木工、森林オリエンタリング、キノコなど森の幸が沢山あった「もりもり鍋」など 11 のコーナーを設け、その中で石川森林管理署も、木製キーホルダー作成コーナーを用意したところ、約 400 名の人々が訪れ、思い思いの絵をキーホルダーに書き付けて楽しみました。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/ishikawa/>

シカの食害から守る防護柵完成

【和歌山森林管理署】和歌山森林管理署が紀南地方の最高峰である大塔山山頂の保全のため作設していた獣害防護柵が完成しました。この山頂には本州南限のブナ林として「大塔山モミ、ツガ、ブナ植物群落保護林」として、



周囲に防護柵設置（大塔山山頂）

大正 12 年から大切に保護されてきました。

しかし、平成 10 年に隣接する前の川国有林と大河奥官行

造林の一部が誤って伐採されてしまいました。

すぐに萌芽して元の山の戻るだろうと予測していたのですが、シカの食害や風による乾燥化により草原化してしまいました。

このため、和歌山森林管理署は、関係行政機関や地元の自然保護団体と協力して検討した結果、シカの食害から幼木や萌芽を守るための防護柵の設置と、併せて風による乾燥化を防ぐために防風ネットを設置することとし、昨年工事を発注し今回完成したものです。

今後は、地元の自然保護団体と協力して、植生の変化などの調査を行うこととしています。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/wakayama>

お知らせ

森と木の絵画コンクール募集

自然にふれあう機会の少ない都市の子供たちに、森や木の姿を観察しながら絵画に取り組むことを通じて、自然に対する関心を高め、さらには自然を大切にすることを育み、日常生活の中で自然について考える機会を広げることを目的として「絵画コンクール」を実施します。

なお、応募につきましては、大阪市内の小学校に限定とさせていただきます。

詳細につきましては、後日ホームページ等でお知らせいたします。

「初夏の上山高原でエコ体験」延期

6月6日（土）に予定していました「初夏の上山高原でエコ体験」は、近畿圏内での新型インフルエンザ発生により、拡大・蔓延防止のため延期とさせていただきます。

また、日程が決定次第あらためて当ホームページ等でお知らせ・参加者を募集いたします。

森林のギャラリー（局庁舎 1 階）

6 月の展示

6/15 - 26 群馬の自然（群馬県大阪事務所）

6/22-7/3 近畿農政局消費・安全部の日頃の取組
～食の安全及び消費者の信頼確保に向けて～



祝 創刊 1,000 号

旧大阪営林局時代の西暦 1938 年 3 月 1 日に第 1 号の広報が創刊され、以来 71 年の時を経ておかげさまで今月号の発行を持ちまして節目となる通算 1,000 号の広報（森のひろば）を迎えることとなりました。これも諸先輩方、皆様方の暖かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後も開かれた「国民の森林」国有林を実現していくため、1 号々と積み重ねて国有林に関する様々な情報を愛読者の方々に提供したいと考えています。